



2019年度 総代会方針案 ダイジェスト版

〒670-0832 姫路市双葉町10番地 ☎079-285-3398

2019年度スローガン

事業と活動を通じた社会貢献をひろげ、 “最期まで安心の在宅生活”を実現します

はじめに

2015年9月、ニューヨークの国連総会で、世界の国々はSDGs（エスティージーズ：持続可能な開発目標）について合意しました。SDGsは、すべての人の人権の尊重を強調し、「貧困・不平等」「健康・福祉」「気候変動」「平和と公正」「住み続けられるまちづくり」などの様々な問題を根本的に解決することをめざす世界共通の17の目標です。この合意により、貧困を終わらせ、すべての人が平等な機会を与えられ、地球環境を壊さずに、より良い生活を送ることができる世界をめざして、世界中が努力することが約束されたのです。2016年から2030年までの15年間、世界中の国々はこのSDGsの達成に向けて取り組んでいくことになります。姫路医療生協は、事業と活動を通じて「持続



はなきた利用委員会の家族会

可能な社会」に貢献します。

私たちは、2018年度も法人理念「その人らしく、気持ちよく生きる」のもと、“個人の尊厳”と“生活の質の向上”を大切にしたサービスの提供とまちづくりをひろげてきました。内閣府が発表した平成30年版高齢社会白書によると、「自宅で介護を受けたい」と回答した人の合計は全体の73.5%でした。私たちは、このニーズを正面から受け止め、“最期まで安心の在宅生活”の実現をめざします。事業と活動を通じて、高齢者人口のピークと言われる超高齢社会“2025年問題”に対応し、明るい未来を切り開きます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2019年度通常総代会の公告

日時：2019年6月20日(木) 午後2時～5時

会場：イーグレひめじ あいめっせホール(3階)

2019年度のすすめかた

1 地域包括ケア^①を推進し、介護と医療の一体化したサービスの提供をすすめます

①事業所を増やし、利用者増をはかります

○2019年4月に看護小規模多機能^②すすかぜと看護小規模多機能てがら（ともに小規模多機能ホームからの転換型）、地域サービスセンター（組合員サービス部の新築移転）の開設等をすすめます。

○太子町における介護事業の展開は、居宅介護支援事業所と訪問看護ステーションを開設し、その後、看護小規模多機能の開設をめざします。

○訪問診療件数を大きく増やし、介護事業との相乗効果をはかります。

○共立病院は、「在宅療養支援」「地域包括ケア病床」「リハビリ」機能強化をはかり、大改造の条件整備をすすめます。

②在宅サービスの限界点を高め、「最期まで家で…」のニーズにお応えします

○地域包括ケアとICF（国際生活機能分類）^③の実践による理解をひろげます。

○「中重度利用者対応」「認知症ケア」「在宅看取り」「生活行為向上リハビリ」「口腔ケア」「栄養管理」の機能強化をはかります。

○医療事業は、“かかりつけ医”機能を強化します。

○姫路医療生協版「地域ケア会議^④」を定期開催し、利用者中心の多職種協働をすすめます。自立支援と重度化防止を重視します。

③経営活動は3つの柱（利用者増・コンプライアンス・質の向上）ですすめます

○事業収益は●●億円（前年比105%）、経常利益は●●万円（経常利益率3.0%以上）を実現します。

○営業活動と広報活動を強化し、利用者増をはかります。広報活動は、ニュースひめじの充実、ホームページやSNSの活用を重視します。

○生協本部に事業連携室長、介護事業部コンプライアンス担当課長を配置します。

○介護事業所のICT（情報通信技術）をフル活用するとともに、AI（人工知能）や介護ロボットの積極的な導入を検討します。

○内部統制システム^⑤の強化をはかります。



小規模多機能ホーム野里（2018年4月開設）

《語句の解説》

①地域包括ケア

誰もが住み慣れた地域で安心してくらし続けられるまちづくり。医療、介護、生活支援・介護予防、住まいの切れ目のない一的なサービスの提供をめざします

②看護小規模多機能

訪問・通い・泊りのサービスに加え、看護師による訪問を組み合わせた地域密着型の在宅サービス。中重度者の

医療的ケアや在宅看取りニーズに積極的にお応えします

③ICF（国際生活機能分類）

障害だけでなく、その人の生活機能—「心身機能」「活動」「参加」を見ることを重視した考え方

④地域ケア会議

多職種の医療・介護専門職や地域住民等が参加して、事例を通して地域課題を明確にし、新たな社会資源の開発につなげる会議

2 「楽しく、おいしく、オシャレ」な地域活動をひろげ、地域共生社会^⑥づくりをすすめます

①誰もが参加できる「くらしの安心ネットワーク」をひろげます

○健康づくりは、健康寿命を延ばすフレイル予防（社会参加、運動、栄養）、ひょうごまるごと健康づくり2019を重視します。健康チェック、健診、健康班会、サークル活動をひろげます。

○くらしの助け合いの会はなちゃんの支援会員や各事業所のボランティアを増やします。

○“地域見守りネットワーク”を意識したニュース「ひめじ」配布網をひろげます。

○仲間ふやし1,000人、出資金ふやし3,000万円以上（純増1,500万円）をめざします。全事業所が組合員利用率50%以上を実現し、組合員利用率のアップに取り組みます。

②ブロック・支部活動を活性化し、担い手をひろげます

○地域に開かれた誰もが参加できる楽しいイベントをブロックや支部で開催します。

○認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり、災害に強いまちづくりをすすめます。

○事業利用委員会は、「キラリハート^⑦」の取り組み、認知症カフェや介護者家族会等の居場所づくりを重視します。

③くらし・平和を守る活動をすすめます

○日本国憲法を学び、平和（9条）、社会保障（25条）を守る活動をすすめます。

○原水爆禁止世界大会への代表派遣や平和行進への参加、「大学習会」の企画等をおこないます。

○原発ゼロの実現、自然エネルギーへの転換の声をひろげます。

○行政とは、“対話型・提案型”で共に地域包括ケアを推進します。

○西播社会保障推進協議会の自治体キャラバンへ積極的に参画します。



あおしブロック「新春の集い」

3 “地域包括ケアを担う人づくり”をすすめます

①職員育成4つの視点の具体化・実践をすすめます

○職員育成4つの視点—(1)地域包括ケアとICFを学び実践できる、(2)多職種協働ができる、(3)利用者増に活かせるマネジメントができる、(4)主体的に地域活動に参加できる人づくりをすすめます。

○全職員を対象にした計画的な職員研修を実施します。

○2019年度リーダー育成研修を実施し、管理者・職責者育成をすすめます。

②創意工夫を凝らし、人材確保・育成をすすめます

○特に医師、看護師、介護福祉士の確保は必須の課題です。新卒介護福祉士確保に向け、“介護事業所で働く魅力”の発信力を高めます。

○待遇改善と職員のキャリアアップを重視します。やりがい・働きがいを創造し、“安心して働き続けられる職場づくり”“挑戦のある職場風土づくり”を推進します。

③組合員と職員がともに学び、協同をひろげます

○地域包括ケア学校、子育て世代等を対象にした世代別講座を実施します。

○SDGs（持続可能な開発目標）を学び、実践に生かします。

○第21回介護・医療フォーラム、創立45周年記念イベント、通信教育等に取り組みます。

○イチ押し班会メニューを充実させ、活用をひろげます。



グループホームめが「ハロウィン・パーティー」

組合員・職員の確信にする取り組み

⑧定期巡回・随時対応サービス

訪問介護と訪問看護、随時対応を組み合わせた24時間つながる安心サービス

⑨総合事業訪問型短期集中予防サービス

リハビリの専門職が要支援者等の軽度者に対し、自宅を訪問し自立支援を目的とした助言・指導をおこなうサービス

2018年度のまとめ

1 地域包括ケアの推進、介護と医療の一体化したサービスの提供

①地域包括ケアとICF（国際生活機能分類）の実践をすすめました

- 姫路医療生協版「地域ケア会議」を定期開催し、ICFシートを活用した多職種協働を推進しました。
- 職員が行政や職能団体の役を積極的に受け、姫路市生活支援体制検討会議や地域ケア会議等に参画し、行政や他団体との“顔の見える関係づくり”をすすめました。
- 管理者研修会は、姫路市地域包括支援課の理学療法士の方を講師に、短期集中予防サービス内容を通じてICFを学びました。

②地域密着型サービスを中心に積極的な新規事業を展開しました

- 2018年4月 小規模多機能ホーム野里、定期巡回・随時対応サービス^⑧北部開設
- 7月 姫路市から総合事業訪問型短期集中予防サービス^⑨の指定

③経営活動は3つの柱（利用者増・質の向上・コンプライアンス）ですすめました

- 2018年度決算は、事業収益●●億円（予算比●●%、前年比●●%）、経常利益●●万円（経常利益率●●%、予算比●●%、前年比●●%）の到達となりました。
- 定期巡回・随時対応サービス利用者確保プロジェクトを立ち上げ、経営改善をすすめました。あぼし診療所は、常勤医師2名体制を実現し、訪問診療件数増を重視しました。
- 共立病院は病院機能評価を受審し、「一般病院1」の認定を受けました。
- 介護事業部によるコンプライアンス活動を計画的に実施しました。介護部門の副統括責任者の配置や全事業所への職責者配置を重視し、管理体制の強化をはかりました。全介護事業所へICT（情報通信技術）導入をすすめました。法人の災害・防災マニュアルの作成と周知は今後の課題です。

2 健康づくり・助け合い活動をひろげ、「くらしの安心ネットワーク」づくり

①ブロック・支部活動の活性化をはかり、“楽しく、おいしく、オシャレ”な地域活動をひろげました。

- ひょうごまるごと健康チャレンジ2018、コープこうべとの共催企画「健康チャレンジ応援講座」、WHOウォーキングイベント、支部活動交流集会、支部ニュースづくり交流会などを開催しました。

- ブロックや支部、事業利用委員会主催の多彩なイベント、認知症カフェやサロン活動、介護者家族会、介護フェア等をひろげました。



「かわひがし介護フェア」での健康チェック



国民平和大行進

各ブロック主催の新春のつどいは、大変好評でした。
○20歳未満の子ども・学生を対象に実施した禁煙ポスタークールには99点の力作が集まりました。

○仲間ふやしは●●名（純増●●名）、出資金ふやしは●●万円（純増●●万円）の到達です。積立出資は月平均1,001件、ニュースひめじ配布協力者は999名（配布率91%）です。

②くらし・平和を守る活動をすすめました

- 3月に学習講演会「福島を忘れない」を開催し、東日本大震災の教訓をふまえ、原発・憲法・沖縄について学びました。
- 原水爆禁止世界大会（広島大会）に2名を代表派遣し、生協強化月間スタート企画で報告会を実施しました。憲法9条を守る3000万人署名（署名数4,303筆：2月15日現在）や「原発なくせ」署名行動等に取り組みました。
- 西播社会保障推進協議会による自治体キャラバンに積極的に参画し、5市6町を訪問し、懇談しました。

3 “地域包括ケアを担う人づくり”

①「職員育成4つの視点」に基づき、職員研修をすすめました

- 職員研修会は、「憲法」「ICF（国際生活機能分類）」「総代会方針」をテーマに14回実施し、延べ670名の職員が参加しました。多職種によるグループワークを重視しました。
- 次期管理者育成を目的にした「2018年度リーダー育成研修」を実施し、26名が参加し、実践的にマネジメントを学びました。

- 新入職員基礎研修、新任管理者研修、メンタルケア研修等を実施しました。

②創意工夫を凝らした人材確保と育成を推進しました

- 介護人材確保は、介護学生のインターンシップや見学の受け入れ、介護福祉士国家試験対策講座、介護事業所見学ツアー等を実施しました。新たに、介護学生参加型のイベント「ハロウインパーティーinめが」を実施しました。2019年度の新卒介護職員は5名採用しました。

○引き続き、医師確保は今後の最重点課題です。

③組合員と職員がともに学び、協同をひろげました

- 学術運動交流集会アンコールセッションin姫路（5月）を開催しました。

- 第20回介護・医療フォーラム（11月）は、「災害に強いまちづくり」をテーマに開催し、災害・減災対策について学びました。

- 非常勤理事研修会は、「MBO（目標によるマネジメント）」や「経営の見方」をテーマに実施しました。

- 通信教育は、組合員38名、職員54名が受講しました。